

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による感染拡大から早1年が立ちましたが、まだまだ安心して過ごせる状況ではありません。また今年は、東日本大震災の発生から10年目の節目を迎えました。この10年を振り返り、亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、培った経験や知見を未来に活かさなければなりません。私たち、ひとりひとりが高齢者と家族に寄り添いながら、老年看護の実践、研究、教育それぞれの分野で貢献することでこの難局を乗り越えていきましょう。

本学会は、一般社団法人化を機に「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」という本学会の立場表明 (2016) を公表しました。これは、本学会が「当事者である高齢者の立場に立つ」という老年看護学に取り組む立ち位置を明確に示したものです。急性期病院における認知症高齢者にかぎらず、施設や在宅・地域などの場でも、予防から様々な疾患の高齢者や看取りの時期にある高齢者に対しても同様です。この考え方を基本とし、令和元年度に「将来構想検討プロジェクト報告書」を作成し、これまでの課題と社会情勢を見据えて本学会の方向性を明らかにしました。令和2年度は、その具体化のために「基盤強化推進プロジェクト」を立ち上げ、コロナ禍の現状も踏まえた現況調査を実施し、その結果を本学会の委員会規定に対応させ「委員会活動の具体化案」を作成いたしました。理事会にて承認されましたので、会員の皆様にもお知らせいたします。今後はこの具体化案に基づき学会活動、委員会活動を推進してまいります。

また、2021年6月に開催される第26回学術集会 (合同学会) は、オンライン開催ならではの利点を活かし活発な学会になるよう、北川公子学術集会長とともに準備を進めております。多くの皆様の参加をお待ちしております。

一般社団法人日本老年看護学会 理事長 大塚真理子

日本老年看護学会第26回学術集会のご案内

第32回日本老年学会総会との同時開催により、日本老年看護学会第26回学術集会をWeb開催します。

■テーマ 高齢者は本当に幸せになったのか
ー成熟社会における老年看護の課題ー

■学術集会長 北川公子 (共立女子大学看護学部)

■会期と開催方法

・2021年6月11日 (金) ~ 13日 (日)
(オンデマンド配信とライブ配信)

・2021年6月14日 (月) ~ 6月27日 (日) (予定)
(オンデマンド配信のみ)

■参加費

・事前登録割引 (2021年5月14日迄)
会員 10,000円 非会員 12,000円

・6月1日~配信中申込
会員 12,000円 非会員 12,000円

■プログラム

会長講演

高齢者は本当に幸せになったのか

ー成熟社会における老年看護の課題ー

対談

地域包括ケアからみた高齢者の幸せ (仮)

特別講演

1. 死の質とスピリチュアルケア
2. 当事者家族が行うケアラー支援

教育講演

1. 授業・研修・チームづくりに役立つアイスブレイク
2. 特別養護老人ホームで「より良い看取り」を実施するための取り組み
3. 慢性的な体の痛みのある高齢者への看護

4. 高齢者の暮らしを支える入退院支援

シンポジウム: COVID-19 流行下における高齢者ケア

- ・訪問看護ステーションの立場から (仮)
- ・急性期病院における COVID-19 流行下の看護実践
- ・コロナ禍における高齢者ケアの現状と課題

セミナー

1. 血液透析を受ける認知症高齢者のケア (仮)
2. スキンケアから高齢者の皮膚を守る (仮)
3. 高齢者の難聴とその支援方法 (仮)
4. 高齢者の下肢・足部の浮腫のアセスメントと生活への影響 (仮)
5. 高齢者のシーティングを考える

リレー式セミナー1: 多職種チームによるせん妄の予防と対応

- ・高齢者のせん妄に関する基礎知識
- ・認知機能低下のある高齢患者に対するせん妄予防と対応
- ・せん妄予防チームの効果と課題

リレー式セミナー2: 排尿誘導における Prompted Voiding のエビデンスと手順

リレー式セミナー3: 認知症専門外来における看護の可能性

- ・認知症専門外来での看護師の役割
- ・ものわずれ相談室から認知症専門外来へのつなぎ
- ・認知症専門外来での初回受診時のアセスメント

研究論文賞受賞者講演

- ・特別養護老人ホームにおける看護実践能力尺度の開発
- ・高齢者の「予想される死」の援助場面における訪問看護師による「呼吸停止確認」の現状
- ・認知症高齢者の血液透析導入後の生活を支える家族の体験

■演題発表: 誌上発表と学術集会 HP 上掲載

■第32回日本老年学会総会「合同シンポジウム」プログラムも多数準備されています。※学術集会 HP を参照

基盤強化推進プロジェクトの活動報告

基盤強化推進プロジェクトでは、今年度、以下の3つのプロジェクトに取り組み、第4回の理事会でその活動が報告されました。

1. 会員の現況調査

- 2020年9月に実施し、調査報告を学会ホームページ及び学会誌第25巻第2号(2021年1月31日発行)に掲載した。
- 本プロジェクトは今年度で終了。次年度以降、現況調査は総務が担当し、定期的(隔年、各期に1回)に実施する。

2. Web, HP等を活用した学会活動の検討

- オンライン研修を確実に実施し、受講者が円滑に参加

できるようオンライン研修運営手引き(第1版)を作成した。

- 次年度から開始予定のオンデマンドによる研修について、予算やシステム等の基盤整備を検討した。
- 本プロジェクトは継続し、次年度はオンライン研修運営・収支の安定化、オンデマンド研修の開始、HPの改善について検討をすすめる。

3. 委員会活動の具体化案の検討

- 将来構想検討プロジェクト報告書と現況調査結果をふまえ、今後の各委員会活動の具体化案を作成した(下記参照)。
- 本プロジェクトは今年度で終了し、次年度は本プロジェクトから派生した新たなプロジェクトを立ち上げる。

将来検討プロジェクト報告書及び現況調査に基づく委員会活動の具体化案

具体化案を検討する上で中心においた点	●2021年度以降の委員会活動に反映できるよう、現状<2020年度現況調査による会員の声、委員会活動実績>と将来展望<将来構想検討プロジェクト報告書>に即した提案を行う。 ●各委員会が相互連携し、会員のニーズを中心においた効果的・効率的な活動を企画・展開する。 ●優れた老年看護実践<看護ケア実践、看護/ケア管理、基礎教育/現任教育、看護政策等>の発掘、言語化、発信を促進し、実践・事例を重視した研究・教育を推進する。
委員会名/小委員会・WG	具体化案
総務 庶務 会計 広報	<ol style="list-style-type: none"> 広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> 一般の人々や他の学問分野・職種に老年看護の魅力を発信する(ホームページの充実、動画掲載、他学会・団体との協働等)。 会員が委員会活動に関心・理解がもてるよう委員会活動を積極的に広報する(ホームページの充実、学会誌での委員会報告等)。 会員や看護職種に対して、立場表明2016をさらに知ってもらう(PR動画、教材作成等)。今後、評価・見直し計画を検討する。 現況調査の定期的な実施 <ul style="list-style-type: none"> 学会の活動・運営の評価、見直しのために定期的に現況調査を実施する。 学術集会の企画運営支援 <ul style="list-style-type: none"> 単独学会、合同学会の交互開催を維持。単独は会員間の交流を、合同は学会交流・他学会への発信を重視し、メリハリを利かせる。 多くの実践者会員が参加でき、多様な開催方法(現地、リモート、オンデマンド、ハイブリッド、誌上)に対応できる学術集会の運営(経費を含め)のあり方を検討する。 …リモート開催は事前申し込みが必須なため、事前参加締切日のメール配信を頻回に行う。 …老年看護実践に有益で実践者にとって魅力あるテーマ・プログラム企画を検討し、参加者を確保する。 会員の相互交流の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> 「実践者と教育研究者がつながる」「近隣地域の会員同士がつながり実践交流を支える」等、会員間の相互交流の仕組みを検討する。 …身近な地域(例えば都道府県単位)の中で支部をつくり、生涯学習支援委員会や災害支援検討委員会等と連動し活動する等。 代議員選挙の投票率改善 <ul style="list-style-type: none"> 投票方法の改善、代議員役割の説明等に取り組む。 入会システム・会員管理のデジタル化 <ul style="list-style-type: none"> 入会申込を紙媒体からWebに移行し、現況調査や学会・研修会申込と連動するシステムを検討する。 会員へのタイムリーな情報発信ツールであるメルマガ登録を確実にするため、メールの登録・管理システムを整備する。 老年看護学の発展に向けた新たな組織づくりの検討 <ul style="list-style-type: none"> 次年度、グッド/ベスト・プラクティスの集積にむけた組織づくりの一環として、コロナ禍における老年看護の実践・教育の挑戦的な取り組み事例を収集し、発信する。 学会として取り組む研究チームづくりのあり方(委員会活動との関連、会員公募制等)を検討する。
基盤強化推進プロジェクト	
編集委員会	<ol style="list-style-type: none"> 企画内容のさらなる充実(他委員会との連携) <ul style="list-style-type: none"> 例)委員会活動を周知するために、企画を組み、学会誌に積極的に掲載する。 学会誌の掲載論文をもとに研究動向をまとめ、この時代における研究課題を提示する。 実践者による「実践報告」「事例報告」の投稿・掲載推進(「認知症ケア事例ジャーナル;日本認知症ケア学会」参考) <ul style="list-style-type: none"> 「実践報告」「事例報告」の集積が研究や実践の発展には欠かせない。特に実践者の投稿論文が採択されるよう、投稿にむけた支援、査読の要点を定め、査読時の教育的役割を強化する。 投稿規程に記載されている「実践報告」に看護管理実践や教育実践が含まれること、事例研究と事例報告の違いについて、実践者が理解して取り組めるような企画を組む。 研究論文表彰選考委員会との連携により、優れた「実践報告」「事例報告」を表彰する仕組みを検討する。 投稿支援について継続検討(他委員会との連携) <ul style="list-style-type: none"> 現況調査において、学会誌への投稿の敷居が高いという意見があった。投稿経験が少ない会員への支援、実践者が研究過程をふめるような支援を他の委員会と連携し取り組む。 共著者の制限廃止の検討 <ul style="list-style-type: none"> 多職種共同研究が行われる中、投稿のしやすさや共著者の負担を考え、会員を条件としていることについて見直す。
研究・教育活動推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> 委員会が行う研究活動のあり方の検討 <ul style="list-style-type: none"> 当該委員会の役割が幅広くあり、その上「会員の研究・教育能力向上支援」と「委員会による研究活動」が同時に行われている。今後、研究テーマに関心の高い会員を巻き込んだ研究活動になるよう「委員会による研究活動」を別組織において会員公募制で取り組み、委員会では、会員の研究・教育支援を中心に活動するという方向性も考えられる。 会員ニーズや社会情勢を反映した学会の課題意識の明確化と活動 <ul style="list-style-type: none"> 日本老年看護学会が何を研究・教育の課題として見ているのかを会員に明示し、取り組む方針があるとよい。 …老年看護のベストプラクティスの集積・教材化、人の死に関わるケアに関する研究・教育の推進、倫理的課題に関する研究・教育の推進、若手・実践者の研究支援と多様性のある研究の推進、実践と研究を結ぶ老年看護の専門家の育成等。

	<p>例)倫理的課題を解決するためのカンファレンスの教材作成 会員の研究力、教育力の向上にむけた研修を生涯学習支援委員会研修の実践編・応用編との共同企画により実施する。</p> <p>3. 研究ニーズ・シーズのマッチングによる共同研究の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践者と教育研究者との間での研究ニーズ・シーズのマッチングするシステムの可能性を検討する。 <p>4. 若手実践者・教育研究者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 老年看護の実践・研究の次世代となる若手会員の研究・教育能力向上を支援する仕組みを検討する。
老年看護政策検討委員会	<p>1. 会員からの政策シーズの収集・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 会員から政策検討・提言につながるシーズ(老年看護実践上、診療報酬・介護報酬上の問題・課題、効果的な介入等)を集め、整理し明示する仕組みを検討する。 特に、効果の手ごたえがあるが現時点では評価されておらず制度的に評価してほしい、広めたい実践を集めて広める仕組みを検討する。 <p>例)認知症の院内ケア、まちの保健室、看護小規模多機能での実践活動</p> <p>2. GCNS、DCN の活動に関する政策提言(他委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> GCNS や DCN の活動が診療報酬等の政策提言に結び付くための資料収集・検討を行う。 <p>3. 診療報酬の新規設置と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記1. による新規加算の創出に向けた取り組みと同時に、学会として、認知症ケア加算、せん妄ハイリスク加算の算定が老年看護の質改善にどう影響しているかを検証する。
国際交流委員会	<p>1. 日本の老年看護実践、研究の発信(他委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の実践現場から、何を発信すべきか洗い出し、整理し、海外向けのコンテンツを作成し発信する。 日本老年看護学会の活動内容を海外に向けて発信する(ホームページでの紹介、国際学会での発表等)。 国際学会の紹介、参加にむけた英文抄録・論文作成の要点について、生涯学習支援委員会研修の応用編との共同企画で、研修あるいは教材作成を行う。 <p>2. 海外の高齢者施策、老年看護の情報収集と紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の高齢者施策や老年看護実践に関する情報を収集し、文化や制度の違いをふまえてつづき会員の実践・教育へのヒントとなるものを提供する。 <p>3. 日本の老年看護を海外に紹介する素材の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 会員が、職場での国際交流事業や国際学会・イベントに参加する際に活用できる日本老年看護学会や日本の老年看護を紹介する素材(英文や写真、イラストが活用されたスライドや原稿等)を作成し、会員に提供する。学会公認の素材を活用することで、会員の国際交流の後押しができる。
生涯学習支援委員会	<p>1. 研修マップの整理と研修の一本化にむけた検討(他委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018年度作成の研修マップを土台に、現況調査結果や他委員会セミナー実績をふまえて、学会としての研修テーマを整理する。 研修を生涯学習支援委員会が担当する場合の組織体制や他委員会との調整・連携について検討する。 <p>2. ウイズコロナ・ポストコロナにおける研修方法の検討(総務、基盤強化推進プロジェクトとの連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> Web研修の場合、赤字を最小にすることも鑑み、ねらいや内容によって、配信方法(Liveのみ、オンデマンドのみ、Liveとオンデマンドの組合せ等)、対象範囲(全国募集による100人以上の多人数制、地域ブロック単位開催等の少人数制等)を選定する。 オンラインであってもグループワークや意見交換の機会を設け、会員の交流を促進する。 新型コロナウイルス感染症の流行状況をふまえて、ハイブリッド研修(対面+Web)、対面研修について検討する。 <p>3. 現場で活用できる教材の作成(他委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場での集合教育で活用できる研修コンテンツ(講義、個人ワークとグループワークのワークシート、コメント等をパッケージ化した教材)を作成し、会員に活用してもらう。
災害支援検討委員会	<p>1. 地域での災害支援ネットワークづくりの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習支援委員会(実践編)との共催による災害支援研修を地域ブロック単位で開催し、平時からのネットワークづくりを含めた研修内容を提供する。 高齢者や認知症者の災害看護に関する教材・資料を作成し、ホームページに公開する。 <p>2. 過去の災害看護経験の集積</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去発生した災害(地震、津波、水害等)発生時に行われ災害看護実践(高齢者、認知症高齢者に焦点をあてる)の実際と評価をアーカイブとして蓄積し、会員間で経験を共有する仕組みを検討する。 学会として、高齢者災害支援の課題を整理し、平時の備え、災害発生時の活動、支援体制のあり方について検討する。 他学会・団体からの高齢者の災害看護実践に関する知見・情報提供の依頼に対応する。
専門看護師・認定看護師活動推進委員会	<p>1. GCNS、DCN の看護実践のPRや教材化(他委員会との連携、認知症看護認定看護師会*との関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学会誌やホームページにおいて、GCNS、DCNの看護実践の内容・成果を発信する。 …一般看護職に実践のヒントを提供、老年看護への関心やGCNS/DCNへの関心を高める、社会への老年看護の魅力をPR 専門性の高い高齢者・認知症高齢者とその家族への看護や看護ケア管理等について、一般看護職に向けての研修企画や教材化に取り組み、老年看護の質の底上げに向けて発信する。 <p>*認知症看護認定看護師会: 日本老年看護学会のCNS・DCN活動推進委員会において、認知症看護認定看護師会設立準備会が設置。 平成27年に日本老年看護学会から独立したかたちで全国のDCNを対象とした会員組織「認知症看護認定看護師会」を設立。 会員の相互交流、実践報告、活動・研究成果の発表のための支援、日本老年看護学会、日本看護協会をはじめとしたさまざまな関係団体との連携などの活動を行う。 定期的に開催する研修会の中でDCNが実践報告を行っている。(http://dcn-society.org/index.html)</p> <p>2. 他分野のCNS、CNとの積極的な連携協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 各職場で実践している他分野(がん看護、クリティカルケア看護、摂食嚥下看護、糖尿病看護、脳卒中リハ看護等)のCNSやCNとの連携協働による看護について、実践報告、事例報告を推進する。 他分野の学会にシンポジストや講師として参加し、老年看護実践の紹介や連携の可能性について発表する。 <p>3. 地域全体で老年看護実践の質向上にむけた活動とその支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアの担い手・牽引役としてのGCNS、DCNの活動について発信する。 …一つの病院、一つの事業所だけでなくも高齢者、家族のためにはならない、高齢者が暮らす地域全体としてよくなっていく活動を展開するための方法や組織づくりについて、どのように取り組んでいるのか。 …地域の健康課題であるフレイル予防、認知症ケア、ACP、意思決定支援等について、どのように取り組んでいるのか。 …COVID-19による高齢者保健医療介護の課題(面会制限、退院支援調整、身体拘束等)に、どのように取り組んでいるのか。 ⇒コロナ禍での老年看護実践への提案・提言
研究論文表彰選考委員会	<p>1. 「実践報告」「事例報告」の表彰制度の検討(編集委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「実践報告」「事例報告」を推進するため、優れた「実践報告」「事例研究」を表彰する制度を検討する。
研究倫理審査委員会	<p>1. 研究倫理審査の活用に向けた広報・教育活動(広報、他委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 会員対象に研究倫理審査を行う委員会があることを周知する広報活動をすすめる。 高齢者や認知症の人を対象とした研究計画を立案する際、倫理的配慮の考え方や留意点をまとめ、会員に活用してもらう。

学会誌のお知らせ

■学会誌「老年看護学」への投稿締切

巻号	発行予定	締切日
第26巻第2号	2022年1月発行予定	2021年7月31日
第27巻第1号	2022年7月発行予定	2021年11月30日

査読は随時受付しております。皆様の論文を是非ともご投稿ください。

■「事例報告」の投稿募集

学会誌では、実践事例を投稿してもらうための取り組みとして、論文の種類として新たに「事例報告」を追加しました。

「事例報告」の審査基準等の詳細につきましては、学会誌「老年看護学」第25巻第2号、182頁の学会誌投稿規程、および184頁の編集委員会編集方針をご覧ください。

皆様の日頃の看護実践の成果をまとめ、投稿していただけることをお待ちしております。

日本老年看護学会 新型コロナウイルス関連 情報サイトの紹介

高齢者ご本人とご家族の方々等、そして高齢者ケアに携わるの方々に対して、感染症対策に関する情報（リンク）をまとめて提示しています。

- 「介護サービス事業者向けの感染対策に関する研修」サイト
2020年7月に厚生労働省老健局より「特別養護老人ホームの介護職員等への標準感染予防策周知のための研修プログラム等検討事業」を受託し、研修プログラムが作成されました。2021年2月末からは一般公開され、どなたでもアクセスできるようになりましたので、是非ご利用ください。

※学会 HP トップ画面よりアクセス可能

- 『「With コロナ」私たちの認知症ケアのニューノーマル』サイト（浜松医科大学社会貢献事業）

鈴木みずえ理事が中心となり、認知症のご本人・ご家族、認知症ケアに取り組む保健・医療・福祉の多職種の方々との情報交換とニューノーマル構築を目指したサイトです。

※学会 HP 「新型コロナウイルス関連サイト」バナーをクリック、もしくは下記 URL よりアクセス

<https://rounenkango.net/dementia-new-normal/>

研究倫理審査の受付をしています

本学会の会員もしくは委員会が行う研究を対象として、研究倫理審査の受付をしています。

所属施設等に研究倫理審査委員会がない場合などにおいて、審査を希望される方は、学会誌「老年看護学」第25

巻第2号、179頁の「研究倫理審査委員会規定」をご確認の上、学会ホームページの会員専用サイトから必要書類をダウンロードして作成し、審査の申請をしてください。

学会誌「老年看護学」第23巻第2号、84～87頁の「研究倫理審査委員会活動報告」に審査の詳細がありますのでご参照ください。

メディカルオンライン電子ジャーナル 専用アカウントのお知らせ

会員専用サイトからご利用いただいている「メディカルオンライン学会誌無料閲覧サービス」は毎年、専用アカウントが更新されます。

下記新 ID・パスワードに切り替わっておりますが、旧 ID・パスワードも3月末まではご利用可能です。なお、3月末以降は、現在と同様に、学会ホームページ会員専用サイト内の当該アイコン横に、新規 ID とパスワードを掲載します。どうぞご利用ください。

〔新規 ID とパスワード〕

学会専用 ID：1100007185-06

パスワード：rpfzkckd

事務センターからのお知らせ

- 2021年3月1日時点の会員数 2,706名

- 郵送物の未着のお知らせと、住所変更のお願い

学会誌等の郵送物が、住所不明等により事務センターへの返送が多い為、未着の方は、下記事務センターまでお問い合わせいただくとともに、学会ホームページの会員専用サイトの「変更申請」から、住所変更を行ってください。

- メールマガジン用メールアドレス登録のお願い

本学会では、会員のみなさまへメールマガジンを配信しています。配信を希望する方は、会員専用サイトからご登録いただくか、下記事務センターまでメールにてご連絡ください。

【編集】総務（広報）担当理事：松岡千代・川島和代

【発行】一般社団法人日本老年看護学会事務センター

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2F

TEL：03-5206-7431 FAX：03-5206-7757

E-mail：office@rounenkango.com

URL：http://www.rounenkango.com/